

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

宇 野 彰

熊 倉 勇 美

倉 内 紀 子

小 林 範 子

城 間 将 江

関 啓 子

玉 井 ふ み

矢 守 麻 奈

今、那須野が原の秋はたけなわで、紅葉が那須岳の麓にまで降りてきました。近年は暖冬続きで眼の覚めるような紅葉にはなかなかお目にかからなくなりましたが、それでも秋の夕陽に映える紅葉の美しさはひとしおです。2巻3号をお届けする頃には落葉も終わり、初冬の風が吹いていることと思います。

本号は第6回言語聴覚学会での講演について Lyndsey Nickels 先生より寄稿いただき、その内容を掲載することができました。Lyndsey Nickels 先生は国際的に活躍されている認知神経心理学者であると同時に言語病理学の専門家でもあります。特に、単語の情報処理に関しては多数の論文と著書があり、世界で最も注目されている研究者のひとりです。今回の題目は「Assessment and treatment of impaired word retrieval: A Cognitive Neuropsychological approach」であり、近年の単語の情報処理モデルの紹介と、それに基づき失語症の評価および訓練を組み立てる方法論が丁寧に解説されています。言語聴覚障害がある方々への訓練は、対象者ごとに障害構造を調べ、先行研究等が明らかにした evidence(論拠)に基づき訓練プログラムを立案し、訓練過程においてその効果を確認していくことになります。仮説があってこそ訓練の効果を検証することは可能であり、本論文は語彙訓練の仮説を考える上での重要な示唆を多く含んでいます。

原著論文は小児失語、発達評価、言語発達障害の指導事例、回復期リハ病棟におけるコミュニケーション評価に関する研究4編で、いずれも言語聴覚臨床に密着した重要なテーマが取り上げられています。また、調査報告では日本言語聴覚士協会リスクマネジメントワーキンググループによって言語聴覚療法のリスク管理に関する貴重な調査結果が報告されています。

言語聴覚障害学分野は基礎から臨床まで非常に幅広く、研究テーマも多岐に渡ります。本誌は各自が取り組まれている研究成果を発表する場であると同時に、本分野の学問の体系化を進めるものと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第2巻 第3号)2005年12月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-5-8 正和ビル 304

(☎03-5338-3855 FAX 03-5338-3856) <http://www.jaslht.gr.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Showa-Build. #304, 8-5-8 Nishishinjuku Shinjuku-ku, Tokyo, 160-0023, Japan

©2005, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎03-3814-1971(FAX 03-3814-8915)